

29年2月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/2月	3月	4月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 22.2	△ 22.2	△ 16.7
	マツ類	△ 35.0	△ 35.0	△ 35.0
	広葉樹	△ 15.0	△ 20.0	△ 20.0
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 15.0	△ 15.0	△ 15.0
	マツ類	△ 27.3	△ 27.3	△ 31.8
	広葉樹	△ 18.2	△ 20.8	△ 16.7
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 31.3	△ 37.5	△ 31.3
	マツ類	△ 44.4	△ 55.6	△ 55.6
	広葉樹	△ 35.0	△ 40.0	△ 40.0

・木材チップの生産、出荷及び在庫は、3ヵ月連続して減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	29/2月	3月	4月
スギ・ヒノキ類	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

・木材チップの出荷価格は、3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・広葉樹の入荷、在庫減で出荷は減少、変わって針葉樹は出荷増(東北)。
- ・原木入荷減でチップ生産も減少。生産に合わせた出荷。入荷減少に合わせた生産を行っており在庫は減少が続いていく(中部)。
- ・変動なし(中国)。
- ・当月積雪の影響で生産、出荷はやや減少、翌月もやや減少、翌々月は横ばい(四国)。
- ・製紙用は、針葉樹、広葉樹とも原木が十分であれば、フル稼働出来る出荷要請がある(九州)。。
- ・広葉樹原木の入荷に応じた生産(九州)。

(木材チップ価格)

- ・変更なし(東北)。
- ・変動なし(中部)。
- ・変動なし(中国)。
- ・横ばい(四国)。
- ・変動なし(九州)。
- ・現状維持(九州)。

29年2月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成29年 2月1日～ 29年2月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は12社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/2月	3月	4月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 27.3	△ 27.3	△ 27.3
	マツ	△ 41.7	△ 29.2	△ 33.3
	広葉樹	△ 29.2	△ 33.3	△ 25.0
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 30.0	△ 30.0	△ 20.0
	マツ	△ 35.0	△ 35.0	△ 35.0
	広葉樹	△ 22.7	△ 18.2	△ 18.2
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 35.0	△ 30.0	△ 30.0
	マツ	△ 40.0	△ 40.0	△ 45.0
	広葉樹	△ 27.3	△ 22.7	△ 27.3

・チップ用国産原木の入荷、消費及び在庫は、3ヵ月連続して減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/2月	3月	4月
スギ・ヒノキ	20.0	10.0	5.0
マツ類	4.5	0.0	0.0
広葉樹	△ 4.2	0.0	0.0

・チップ用国産原木の購入価格は、スギ・ヒノキはやや強含みで推移。マツ類及び広葉樹は総じて保合。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

- ・システム材の入荷が今月で終了のためスギの仕入れは多少減少する。広葉樹は再生事業への移行に加え、天候悪化で激減（天候回復とともに多少増加）（東北）。
- ・冬場のため入荷は減少、2月に山からの入荷予定あり。生産したものは受け入れ可能な状況（中部）。
- ・変動なし（中国）。
- ・当月積雪の影響で仕入れ、消費はやや減少、翌月もやや減少、翌々月は横ばい。仕入れ減で在庫も減少の見通し（四国）。
- ・12月は雨が多かったため出てこなかったせいか、1月下旬から針葉樹、広葉樹ともに入荷が増えて来た。2月は1月よりもやや増えそう。しばらくはフル稼働できる量の納入の要請がある。原料入荷が十分あればこのまま生産を維持できる。入荷一出荷が安定していれば、材の回転も良く出来る（九州）。
- ・広葉樹が入らない。仕入れに応じた生産（九州）。

(原木価格)

- ・広葉樹は安定。針葉樹は上昇が見込まれる（東北）。
- ・変動なし（中部）。
- ・変動なし（中国）。
- ・横ばい（四国）
- ・広葉樹は原木不足で12月から、針葉樹は1月から発電用丸太と製紙用の価格調整のため原木価格を上げている（九州）。